



センター長就任のご挨拶

京都産業大学
教育支援研究開発センター長
小林 満



「対話」dialogue はギリシア語起源で、dia- (横断して) と -logue (話すこと) が結びついてできたことばです。つまり「2者(3者、4者...)の間で話し合うこと」です。学生と学生、学生と教員、教員と教員、教員と職員...さまざまなレベルで互いの考えを伝え合い、理解し合い、議論を交わして、構成員全員で大学全体の教育環境を向上させていくこと。これが求められている時代です。会話を独占する「長話」や相手不在の「ひとり言」などを意味する monologue (mono- (単独の)) になっていないか、授業でも会議でも気を付けたいものです。教育支援研究開発センターは学内の「対話」のお手伝いをすることで、京都産業大学の教育力アップに資する活動を展開します。今後ともよろしくお願いいたします。

Contents

- ◆障がい学生支援推進団体あすかが巻き起こす旋風
ー障がい学生が創るユニバーサルデザイン講義への架け橋ー
 - ・障がい学生の目線で伝えたい
 - ・ユニバーサルデザイン講義実現に向けてのロードマップ
 - ・参加者の気づきのその先へ 他



- ◆学生FDスタッフが巻き起こす旋風
ーAC 燦から未来への招待状ー
 - ・燦の挑戦～学生FDサミットの企画
 - ・参加者の「気づく」から「築く」へ
 - ・未来に向けて、さらなる躍進 他

京都産業大学
学生FDスタッフ燦
マスコットキャラクター
SUNちゃん
学生が考案!
様々な場面で活躍中!

- ◆ラーニングコモンズ学生スタッフが巻き起こす旋風
ーLCSとともに育つ共創空間ー
 - ・公開セミナー
 - 「言葉で<私>を表現する-思いを伝えることの難しさ」 他

セラデス CERADES は、教育支援研究開発センターの英語名称
Center for Research and Development for Educational
Support の略称です。

神山祭 マスコットキャラクター 神山くんです。
好きなものは、みんなの楽しそうな笑顔です。
来年の神山祭、ぜひよろしくお願いします!



神山くんも
学生が考案した!
SUNちゃんのお友達
京都産業大学 神山祭
マスコットキャラクター 神山くん

障がい学生支援推進団体あすか

障がい学生が創る ユニバーサルデザイン講義への架け橋

第2回全学FD/SD研修会

「ユニバーサルデザインの講義—すべての学生に受けやすい講義の形とは—」

5月28日（水）、障がい学生支援推進団体あすか（以下、あすか）主催で、障がい学生を受け持つ教職員が授業運営の方法について情報を共有し、実務的な疑問を解消することを目的として、第2回全学FD/SD研修会を開催しました。

今回は、学外公開型研修会とし、障がい学生支援に携わる大学教職員ら83名の参加がありました。

障がい学生の目線で伝えたい

本研修会は、前年度の第3回全学FD/SD研修会に登壇した、あすか代表の辻悠佳さん（法・4年次）らが中心となり、「もっと障がい学生当事者の目線を盛り込みたい！」と企画を提案しました。あすかはこれまでに、他大学との情報交換・課題の共有を目的とした障がい学生支援に関するワークショップ・啓発活動を行ってきましたが、今回は教育支援研究開発センター、ボランティアセンター、学生FDスタッフAC 燦による共催で、全学FD/SD研修会としての開催が実現しました。

ユニバーサルデザイン講義実現にむけてのロードマップ

本研修会に先立ち、あすかと登壇者の間で「ユニバーサルデザインの講義」のイメージを共有するため、綿密な打ち合わせとリハーサルが行われました。プログラム内容にはあすかの様々な工夫が盛り込まれ、ユニバーサルデザイン講義について考えを深めてもらい、各参加者に「合理的配慮」のイメージをつかんでもらう機会となりました。

障がい学生について 知ろう！

○ショートムービー

本学に在籍する障がい学生が、自らの障害・必要としている支援・趣味等を語る字幕付きのムービーを上映しました。障がい学生それぞれがどのように学生生活を過ごしているのかを身近に感じてもらいました。

障がい学生の視点を 理解し、実務的な課題を 解消しよう！

○模擬授業

法学部の耳野健二教授、久保秀雄准教授、理学部の渡辺達也准教授に模擬授業をしていただき、障がい学生自らがわかりやすいポイント等を解説しました。「重要語句をスライドに出す」「板書を中心に学生の様子を見ながら、丁寧に話す」、「予め障がい学生に板書ノートを渡す」等、参加者に実務的な課題を解消するヒントを得てもらいました。

○グループディスカッション

「ゼミなどの小人数講義での支援方法」「英語などの語学授業での支援方法」「実験などでの支援方法」「ユニバーサルデザイン講義の理想」のテーマに分かれ、教職員・学生を交えてグループディスカッションを行いました。話し合いの結果を各グループで模造紙にまとめ、最後に全体で共有することで、参加者自身が自分でできることを考えるきっかけを作りました。

ユニバーサルデザイン講義 について考えを深めよう！

○実践事例の紹介

障がい学生を受け持った経験のある、法学部の吉永一行教授、経済学部の山田勝裕教授、理学部の米原厚憲准教授にご登壇いただき、障がい学生支援の方法について、ご自身の実施事例を紹介していただきました。

LET'S FLY! —参加者の気づきのその先へ—

セミナー終了後に実施したアンケートには、「障がい学生が求めていることに気づいた」（教員）、「障がい学生を身近に感じられた」（学生）等の声があげられ、あすかが意図していた「障がい学生の目線で伝える」という目的は達成できたと考えられます。また、模擬授業や実践事例の紹介を通して、「授業スタイルの工夫・配慮などもっと努力したい」（教員）、「普段使いがちな指示語、説明方法が障がい学生にとってわかりづらいと感じた」（職員）、「自分のPCスキルが誰かのためになることは良いことだ」（学生）等の感想が寄せられ、各参加者は自身ができることを考えることができました。

ユニバーサルデザイン講義を実現するためには、「学生・教職員の各々の立場で意見を言える場が大切だ」（職員）との意見があるように、教員・職員・学生が対等に意見を出し合い、障がい学生支援の在り方を具体的に話し合う場を、今後も継続して創る必要があります。教育支援研究開発センターでは、ユニバーサルデザイン講義の実現にむけた授業改善・プログラム改善へと繋がるよう、ボランティアセンター等の関係部署と連携し、障がい学生支援を推進していこうと考えています。

Coming Up NEXT!

詳細は POST をご覧ください。

第3回全学FD/SD研修会「発達障害の理解および学内における支援について」

日時：平成26年12月3日（水）13：15～16：00

場所：雄飛館ラーニングcommons（パフォーミングスペース）

問い合わせ先：学長室（教育支援研究開発担当）Mail：kyoiku-shien-center@star.kyoto-su.ac.jp





8月23・24日、京都産業大学で「学生FDサミット2014 夏」が開催され（主催：本学学生FDスタッフAC 燦・教育支援研究開発センター）、全国61の大学から、過去最高480名の学生・教員・職員が結集しました。「学生FDサミット」とは、学生FD活動に取り組む全国の学生・教員・職員が一同に会し、各大学における活動の成果を発表し合い、課題等について共有、議論する場となっています。

学生FDスタッフ AC 燦(SAN)

AC 燦から未来への招待状 学生FDサミット2014 夏「あなたがキック未来」

AC 燦(SAN)は、『京都産業大学をもっとよくしたい!』との思いから、京都産業大学の教育改善のため活動している学生FDスタッフです。

AC 燦の挑戦～学生FDサミットの企画

今回サミットを企画したAC 燦は、「共創・笑顔・学生主体」をコンセプトに、参加者がただ情報を受け入れるのではなく、対話によって学生FDの原点を見直し、互いの実感を伝え合うことで個人や団体の目標を振り返ろうとしました。そして、対話から生まれた「気づき」をもとに、参加者がそれぞれの思いを深く語り合うことで、今までの学生FDサミットで行われてこなかった、学生FDの未来を参加者自身が「築く」ことに挑戦しました。AC 燦は、その「未来への招待状」を、今夏、全国の学生FDに関わる学生・教員・職員に向けて発信したのです。

未来への招待状 ～なぜ学生FDの未来を「築く」のか

AC 燦は考える。対話によって大学を良くすることへの参加者の「思い」を引き出し、学生FDの未来を主体的に描き「築く」プロセスは、各自、また各団体の活動への道標、そして明日からの活力につながると。だからこそ、AC 燦は、愚直なまでに学生FDは「誰のために」「何のために」と問い、参加者の一人一人に個人の思いに「気づき」、未来への主体的な「築き」が得られるようにプログラムを考えようと思いました。それにより、AC 燦の活動理念である「アホなことを真剣に、マジメなことを楽しく」を全国の大学から集まった参加者と実践しました。

対話によって未来を築くプログラム

1日目：「現状を整理し、理解する」

○オープニング

「いい大学とは何か、それに向けて学生FDができることを見つめ直して欲しい」とAC 燦代表徳田義貴さん（経営・3年次）の挨拶の後、寸劇を通して「学生FDってどんなことするの?」や、「学生FDサミットを開催する意味はあるのか?」など、2日間の議論をすすめる問題意識を会場の参加者と共有して、サミットが開幕しました。



○ポスターセッション

他大学の活動をよく知ることで、自大学の活動を振り返り、学生FDを理解して、今後の活動のヒントを得る場としました。質疑応答やアドバイスを通じて、参加者の活発な交流が生まれました。



○しゃべり場

「学生が大学をよりよくするために何ができるか」をテーマに各グループ6～7人で、意見交換を行いました。各大学に持ち帰って活動に活かせるような気づきを得て、学生FDの未来（ビジョン）を考えるための素地をつくりました。



2日目：「未来を考える」

○分科会

「だれのために」「何のために」をテーマに、学生FD活動の課題について5つの分科会を開催しました。グループワークなどを通じて、それぞれ課題について、深く意見交換や共有を行い、各自の視野を広げる場となりました。



- ・分科会1「学生FDはじめてみました」
- ・分科会2「一目瞭然! みんなで貼ろう授業アンケートのイイネ!」
- ・分科会3「これさえあれば安心!! 学生FD広報ガイドを作ろう!!」
- ・分科会4「ファシリテータのしゃべりバナレに次の一手」
- ・分科会5「学生FD七転び八起き～こんな失敗しちゃダメよ～ダメダメ!～」

○未来への招待状・エンディング

「未来は分からない」けれど「未来をイメージすることはできる」2日間の対話を経て、参加者が学生FDの未来について、不安と理想の両面をグループワークで語り合い、自らの言葉で考えをまとめて、グループや会場の参加者と共有しました。互いに未来を築き合うことで、サミットは閉幕しました。



参加者の「気づく」から「築く」へ

AC 燦は、ファシリテータとして対話を促進することで、参加者に、自分たちが大学の未来を築く当事者なのだという意識を芽生えさせる場を創出しました。

参加者からは「学生FDが何なのか分からないまま参加していました。サミットが進むにつれ理解していき、自分も行動を起こしてみたいと思うようになりました」（学生）、「多くの人達との意見交換を通して視野が広がり、モチベーションが高まりました」（学生）、「大学の未来は学生と教職員でともに築くものであることを再確認しました」（教員）などの声を戴きました。サミットのコンセプトとした「共創・笑顔・学生主体」が、今後、各大学での活動にも活かせることを楽しみにしています。

未来に向けて、さらなる躍進

サミットを終え、主催したAC 燦のメンバーも、新たな刺激を得て、次への活動を始めています。9月には、岡山大学の「i*See2014 全国授業評価アンケート決定戦」に参加して、全国から集まった多くの大学の学生・教員・職員と情報交換やディスカッションを行い、各大学の授業評価アンケートの取り組みや、自大学のFDの取り組みについて理解を深めました。

16大学が参戦したトーナメント方式の授業評価アンケート決定戦では、自大学のアンケート実施方法、結果の開示方法を、質問に応じて自分たちで紹介しました。その結果、京都産業大学のアンケートの取り組みが評価されて優勝。今後の改善策についても積極的に意見を出すなど、「大学を良くする」FD活動に以前にも増して視野を広め、活動の場を広げようとしています。今後、AC 燦は、学生FDスタッフとして、京都産業大学の学生・教員・職員と共に大学を良くするために話し合う『京産共創プロジェクト』で、授業アンケートをテーマに取り上げるなど、積極的に活動していく予定です。

CERADES 職員から見た AC 燦の姿

「学生FDサミット」を実施するまでに、AC 燦の内部では意見の衝突や食い違いが多々見受けられました。その中でAC 燦のメンバーも、対話を通じて切磋琢磨し、企画・提案力を磨いている姿に触れ、学生の成長をひしひしと実感しました。



AC 燦は今後、『サミットデータブック』に詳細をまとめ、情報発信をしていく予定です。ご期待ください!!

ラーニングコモンズ学生スタッフ

雄飛館ラーニングコモンズでは平成25年の仮オープン以来、ラーニングコモンズ学生スタッフが快適な空間をつくるために日々活動しています。毎日の館内整備以外に、「自分（学生）たちにとって使いやすい主体的に学ぶ空間とは」、「ラーニングコモンズを有効に利用するためのグループワークスキルとは」など様々なミッションを設定し自主的にグループワークを重ねながら、ワークショップやセミナーを開催し、大学の内外に発信しています。



LCS※とともに育つ共創空間（※ラーニングコモンズ学生スタッフ）

＜実施報告＞雄飛館ラーニングコモンズ公開セミナー 「言葉で〈私〉を表現する一思いを伝えることの難しさ」



「学生が相互に刺激を与えながら知的に成長するための空間」というコンセプトを学内外に浸透させるため、LCS※が中心となって、教員・職員・ブックセンターの協力

を得ながらグラントオープンセミナーシリーズと銘打って、対話を中心にしたセミナーを開催、そのファイナルとして公開セミナーを開催しました。

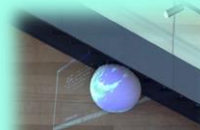
第1部のグループディスカッションでは学生がファシリテーターを務め、実際に思いを言葉で表現することの難しさについて体感しました。第2部の基調講演には本学総合生命科学部教授であり、当代随一の歌人の一人である永田和宏先生を迎え、参加者は学内外・学生・教職員を問わず75名の参加がありました。

＜気づき（実施アンケートより）＞

今回のアンケートより参加者が内容においても、このようなセミナーが学内で企画されることについても、おおむね満足し今後の実施に期待していることがわかりました。

「自分を表現する難しさはどう克服すべきか。」「表現力を磨くために身につけるべき習慣とは」など今後の企画に結び付く質問も飛び出し、アンケートでは「大切な人に肝心な時にありがとうと言えない永田先生の講演心に響きました。今すぐ必要な知識やスキルを学ぶばかりがlearningではないと思います。こういう人がいる場所、その人の話が聞ける仕掛けのある空間、やはり使う人の顔の浮かぶ設計が一番大切なんじゃないかと思いました。（原文のまま）」と、ラーニングコモンズのあり方を考えさせるような感想を書いてくださった方もあり、企画した側にとっても非常に多くの収穫がありました。

Coming Up NEXT!



LCS Presents 《宇宙箱舟ワークショップ》 もし宇宙に引っ越すなら

第2の地球にあなたは何を連れていきますか・・・

日時：平成26年11月19日（水）15:00～17:00

場所：雄飛館ラーニングコモンズ2階 パフォーミングスペース

ご案内の詳細はPOSTをご覧ください



雄飛館ラーニングコモンズのその他の取り組み

雄飛館ラーニングコモンズでは、学生の授業外学習を支援する取り組みとして、ワークショップと個別相談を行っています。また、学生の授業外学習の空間ですが、アクティブラーニング形式の公開授業やイベントなどの場合は、教職員の方にもご利用いただけます。詳しくは雄飛館ラーニングコモンズのHP (<http://www.kyoto-su.ac.jp/global/lc/>) をご覧ください。

ワークショップと 学習支援メニュー (2014 年秋学期)

	月/Mon.	火/Tue.	水/Wed.	木/Thu.	金/Fri.
お昼休み 12:30～13:00	スタディスキルワークショップ (不定期)	英語自学自習システムサポートタイム	英語ワークショップ	英語自学自習システムサポートタイム	日本語ワークショップ

私たちが担当します！



学習支援メニュー	
ラーニングコモンズ活用支援	
ライティング	日本語レポート・論文作成 英文作成
メディアコミュニケーション	ICTの基礎的利用
パフォーマンス	プレゼン・スピーチ
チーム運営	ファシリテーション ディスカッション
イベント関連	イベント企画・運営・調査スキル

■平成26年度 教育支援研究開発センター主催研修会・年間予定

第1回全学FDSD研修会	5月	「英語によるアカデミックライティングの手法に関するFD/SD」
第2回全学FDSD研修会	5月	「ユニバーサルデザインの講義 一すべての学生に受けやすい講義の形とは一」
第3回全学FDSD研修会	12月	発達障害の理解および学内における支援について
今後の予定・テーマ：京産共創プロジェクト「授業アンケート活用法」「シリーズ・アクティブラーニング」		

■新任教員研修会

第1回新任教員研修会	4月	「京都産業大学の教育の特色」「先輩若手教員からみた本学学生の特徴」「本学における授業の運営方法」 ミニトークとグループディスカッション
第2回新任教員研修会	6月	「教員―学生間の授業に関する対話シート」体験談「アンケートの特徴と活用方法」

■授業アンケート（2種類）

教員―学生間の対話シート	春学期・秋学期	※第6週目までに実施
学習成果実感調査	春学期・秋学期	※第14～15週目に実施

『CERADES News』Vol.3 平成26年11月発行

編集/発行 京都産業大学教育支援研究開発センター

〒603-8555 京都市北区上賀茂本山 Tel: (075)705-1729

mail: kyoiku-shien-center@star.kyoto-su.ac.jp

<http://www.kyoto-su.ac.jp/outline/approach/excellence/>